

大峰山奥駆道報告書(前編)

山行メンバー：町田 修 (CL) 津田廣一 (SL) 藤田勝啓 (走破参謀)

期 間：2,022.5.9～5.12 (3泊4日)



女人禁制を守る修験道の聖地と世界遺産の原生林を歩く

〈計画概要〉

日付	工程	宿泊場所	行動時間
5/9 (月)	名古屋～吉野～青根ヶ峰～四寸岩山～二蔵小屋泊→		(5 h 50m)
5/10 (火)	二蔵小屋～山上ヶ岳～大普賢岳唐～行者還避難小屋泊→		(9 h 50m)
5/11 (水)	行者避難小屋～弥山～八経ヶ岳～釈迦ヶ岳～深仙の宿泊→		(9h45m)
5/12 (木)	深仙の宿～大日岳～地蔵岳～涅槃岳～行仙岳～行仙の宿泊→		(9h30m)
5/13 (金)	行仙の宿泊～笠捨山～香清山～玉置山～玉置神社→		(7h55m)
5/14 (土)	玉置神社～大森山～七越峰～熊野本宮→		(7h30m)
5/15 (日)	熊野本宮～新宮(JR)～名古屋～刈谷～豊橋		

4日間の奥駆けから帰って暫く、朝4時ごろ目が覚める。奥駆けの4時起床、5時30分発の習性は短期間でも体内時計に刻まれたのだろうか。さて、大峰山奥駆けに必要な、吉野から熊野大社までの国土地理院 1/25,000 地形図は8枚(吉野山・洞川・弥山・釈迦ヶ岳・池原・大沼・十津川温泉・伏拝)が必要だ。しかし、今回は4枚目の釈迦ヶ岳で終わった。例年に無く早い梅雨前線の北上で、ただでさえ雨量の多い紀伊半島は初日の5/9から時雨模様。以後、霧と雨の中を三日間計画に沿って南下する。そして5/12以降の天気予報はひどい本降りの予想で、大日岳を超え前鬼の部落へエスケープルート下山を判断する。いわゆる「北奥駆道」を歩き、「南奥駆道」を残した形だ。

今回はその3.5日間の北奥駆道山行を前期とし報告する。

もちろん後期「南奥駆道」はリベンジする!!



2022.05. (記) 町田

5/9 (月) 吉野山～二蔵宿小屋 曇り後雨

■ルート (名古屋 (近鉄) ⇒吉野駅⇒金峰山寺⇒青根ヶ峰⇒四寸岩山⇒二蔵宿小屋)



■行動記録 (行動時間 5 時間 35 分)

12 : 00 吉野駅発⇒14 : 30 奥千本東屋 ⇒15 : 40 四寸岩山 ⇒17 : 15 二蔵宿小屋着⇔17 : 35 水場

吉野駅に降り立った人はまばらで駅前の土産店や飲食店も大方店じまいで閑散としている。吉野の桜は4月中旬が満開で、そこをピークにその後は秋の紅葉シーズンまで人出は少ないそうだ。我々は一軒の食堂に入り、これからの山行をカーボローディング(エネルギー源であるグリコーゲンを体内に多く貯蔵する)でカバーしようと、丼モノを注文し腹を太らせて出発する。途中、金峰山寺(修験道の総本山)に寄り山旅の安全を祈願する。暫く歩き出すと雨が落ちてきた。やれやれ、初日くらいはお日様の下で歩きたかったが残念！ 早速カッパを着て奥千本に向けて登る。立派な近畿自然歩道から登山道に入り、四寸岩山へ登る。そこから暫く下ると二蔵小屋に着いた。先客は無く、我々だけだ。時間はすでに 17 : 00 を回っている。急いで片道 10 分水場へ水汲みに出かける。私はコップで他 2 人はキャップ付きウォーターバック。足場の悪さや距離を考えるとウォーターバックが断然良い。以後、津田さんのバックをお借りする。小屋には薪ストーブがあった。薪もいくらか置いてある。雨で冷えた体には嬉しいが、枯れた杉の葉を焚付けにマットで煽ぐがなかなか焚き付かない。技能不足か、薪が湿気っていたのか、煙りだけがもうもうと立ち込める。暫く、三人で TRY したが薪への着火に至らず断念する。



金峰山寺 (世界遺産)



四寸岩山 1235.9m



二蔵宿小屋

それぞれが、それぞれで軽量化やカロリーを考えて持参した夕食 (例 : 町田メニュー⇒モンベルリゾット「カレー」/お湯を入れて3分で食できる&卵スープ) を食べる。明日からこの様なメニューが朝晩続くのだ。小屋にあったローソクの火がちょっと明るさを演出してくれるが、ラジオから流れる明日の天気予報はパツとしない。早々に寝る。

2022.05. (記) 町田

5 / 10 (火) 二蔵小屋～行者還避難小屋 曇り後雨

報告：津田

■ルート 二蔵小屋～五番関（女人結界）～山上ヶ岳～大普賢岳～七曜岳～行者還岳～行者還避難小屋

(行程 20Km コースタイム 9 時間 50 分)



■行動 (行動時間 12 時間 5 分 休憩含む)

5 : 35 二蔵小屋発→6 : 15 旧道狼谷過ぎ→7 : 05 五番関→8 : 45 洞辻茶谷→9 : 55 大峯山寺 (10 : 05 山上ヶ岳山頂湧出岩) → (11 : 00 子笹の宿跡) →11 : 20 阿弥陀ヶ森分岐→12 : 30 大普賢岳 400m手前→ (13 : 00 大普賢岳) →13 : 55 国見岳→14 : 50 七曜岳→16 : 00 行者還岳→17 : 40 行者還避難小屋

4 時起床、ジフィーズ食材の朝食を食して出発準備。夜に降っていた雨も止み、カップなしで出発。すぐに大天井ヶ岳へ向かうルートと直に山上ヶ岳へ向かう旧道に分かれる。距離の短そうな旧道を選択。ポレポレで進むも急登で暑い。崩れかけた斜面も渡り狼谷の水場を過ぎた平坦地で 1 本、たまたま 1 枚脱ぐ。次の水場の手前、折れ曲がった道を曲がるや、「ウワッ!」「オッ〜!」「ワオ!」と、3 人が 3 様の叫び声をあげた。鳥の羽と血を流した 1m 以上の動物の亡骸が道を塞いでいた。“鷹にでも襲われたか?” 避けて横を通過する。快調に進んで五番関(子天井ヶ岳)へ到達。女人結界門をくぐって 30 分、鍋カツギ行者の祠を通過する。更に 1h 位歩くが、きつい。一人じゃ心が折れてとても歩き続けることが出来ないなあ〜と思いながら歩く。やっとの思いで洞辻茶屋へ。大きな立派な建物だ。しばし休憩し、上を目指す。1h 歩き大峯山寺門前へ。マスク着用との張り紙でマスクをして中に入る。本堂で安全祈願をして山上ヶ岳山頂(湧出岩)へ。お花畑で登頂写真を撮って大普賢へ向かう。小笹の宿跡を通過し、阿弥陀ヶ森分岐で 1 本。大普賢へ向かう途中、シャクナゲの蕾と咲いた花に癒される。手前 400m の所で 1 本取って、大普賢岳山頂へ。縦走路の国見岳ポイントで 1 本(山頂ピストンはパス)。難所(岩場)の七曜岳へ向かう。雨がパラパラし始めてカップを羽織る。濡れた鎖場を慎重に登りきり、休憩後に又、慎重に降った。行者還岳は、空身でピストン、途中の水場で水を少し補給し疲労困憊しての小屋着。小屋の貯水タンクの水が出ず、交代で水汲みに行くが、私は間違えの道の間違えての大失敗。疲労困憊による注意力低下のせいかな? この日の寝つきはとてつもなく早かった。



五番関 (女人結界門)



鍋カツギ行者の祠



洞辻出迎不動尊と洞辻茶屋建屋



大峯山寺門前 (マスク着用とあり) と本堂



湧出岩(山上ヶ岳)



山上ヶ岳登頂の3人



シャクナゲの蕾と開花



大普賢岳



七曜岳の登り下り
鎖場が厳しいよ〜

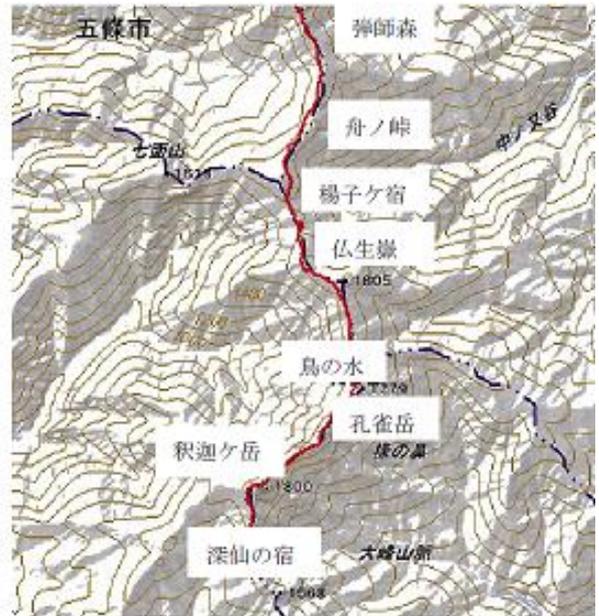


行者還岳登頂

5/11 (水) 行者還避難小屋～深仙の宿 雨時々曇り

報告：藤田

■ルート (行者還避難小屋～弥山～明星ヶ岳～楊子ヶ宿～釈迦ヶ岳～深仙の宿 行程 18km コースA 9時間45分)



■行動 (行動時間 12時間15分 休憩含む)

5:20 行者還避難小屋発 6:40 一ノ峠→7:20 弁天ノ森→9:30 弥山 1895m→10:00 八経ヶ岳
→10:35 明星ヶ岳トバ→12:05 舟ノ峠→13:05-45 楊子ヶ宿→14:30 仏生嶽→15:10 鳥の水
→15:20 孔雀ヶ岳→16:45-55 釈迦ヶ岳→17:35 深仙の宿

縦走3日目、濃霧の中をカップ着用で出発。前半の明星ヶ岳までは登りやすい稜線だが、そこを過ぎると釈迦ヶ岳までは行けども、行けども険しい岩場の難所が続く。10時間を超す長丁場なので核心部まで出来るだけ余力を残す為にゆっくりしたペースで進む。展望がきかないので足下の花や木を楽しみながら歩く。弁天の森まではコバイケイソウの群落、ミツバツツジ。弥山～明星ヶ岳はオオヤマレンゲの芽吹き、ヒメイチゲ、カメノキ、タチツボスミレ。釈迦ヶ岳まではキバナシャクナゲ、サクラソウなどが見られた。弥山小屋の管理人に深仙の宿の水場情報を聞いた。雨天なので水枯れは心配ない様だが念のため、途中の楊子ヶ宿で10分かけて約1リットル補充した。鳥の水(水場)も同程度の水量が流れていた。深仙の宿も同程度の水量でこの時ばかりは恵みの雨を感謝した。

明星ヶ岳からの核心部は痩せた稜線の濡れた急な岩場の下りで難所にはロープや鎖が懸けられているが、空針岳、杖捨て、馬の背、念仏橋と続き、6時間以上かけて釈迦ヶ岳にたどり着いた。

(釈迦ヶ岳には釈迦如来像が立っている。台座を含めて3.6m、数百キロあるが、これを分解して山頂に上げたのは通称、鬼マサという強力(身長188cm、体重120kg)。ヘリコプターのない大正時代、前鬼口から山頂までの8kmを何度も往復して運んだ。)

楊子の宿付近で霧の向こうからいきなり「藤●さんですか」と声を掛けられたので「藤田です」と答えた。山岳救助隊の人達で事情を聞くと、千葉の藤●さん67才が4月29日から大峯山奥駈道に入山して行方不明に成ってニュース報道もされているとの事。奈良県と和歌山県の山岳救助隊が出動している。雨でヘリコプターが飛べないので人海戦術は大変だ。我々も遭難のリスクはかかえているので他人事ではない。

遭難すると多くの人に迷惑をかける事を忘れずに無理せず安全第一に、無事下山しようと思った。



コバイケイソウ



カミダイ



タチツボスミレ



オオヤマレンゲ



ヒメイチゲ



サクラソウ



明星ヶ岳の下り



釈迦ヶ岳の上り



釈迦如来像と

5/12 (木) 仁仙の宿～前鬼 雨・雨

■ルート (仁仙の宿～大日岳～前鬼分岐～前鬼 行程 2.8km)



■行動 (行動時間 3 時間 10 分 休憩含む)

6:30 仁仙の宿発 ⇒7:10 分岐⇒7:40 二つ岩

⇒9:40 前鬼着

前夜、本日以降の悪天を予測し、前鬼へのエスケープを決めた。いざ、分岐に立つと南奥駆道への看板が山心をくすぶる。しかし、ここは決心通り下山するしかない。

下りの道は木で作った階段が多く設置され、濡れた木は滑りやすく緊張の連続だ。二ツ岩を過ぎ、苔むした沢筋をひたすら下る。杉の大木が表れたころ前



前鬼への分岐

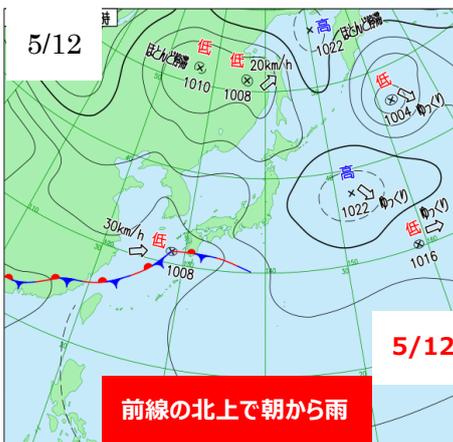
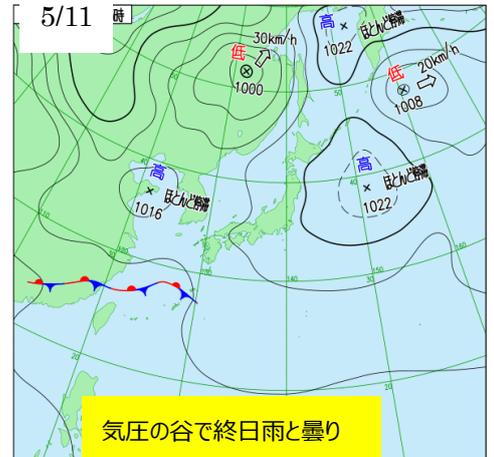
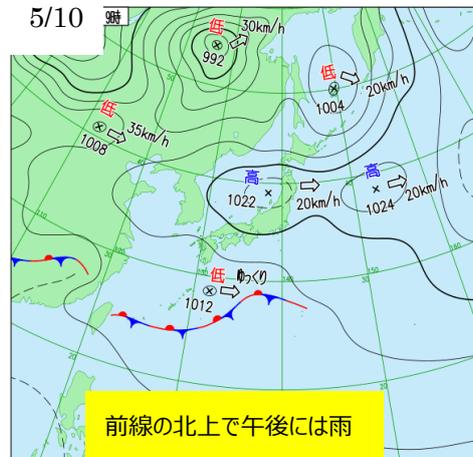
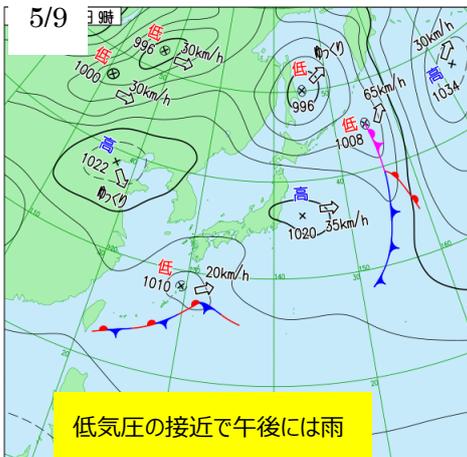


二つ岩

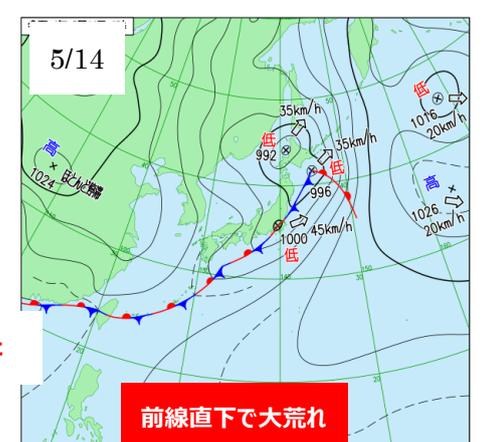
鬼に着く。無人の廃村に人影はなく iphone のアンテナも全く立たない。何故か電話ボックスだけが異常に存在感がある。が、縦走路に点在する寺院や仏像に賽銭を使い、みなさん小銭の 10 円が無い! ..たまたまタクシー会社の名刺と一緒に 10 円が置いてあり、これで帰路のアクセスが繋がった、感謝!! 全山走破後の宿泊旅館をキャンセルし、タクシーで近鉄「大和上市駅」へ出て、一路名古屋へ。



電話ボックス



5/12～14 の前線北上の悪天を予測し、前鬼へエスケープした



天気には勝てないね！ それでは次回、南奥駆道の報告をお楽しみに！

2022.05.17 (記) 町田